



平成 22 年 4 月 21 日

各 位

会社名 テ ラ 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 矢崎 雄一郎
(コード番号：2191)
問合せ先 取締役管理本部長 山本 龍平
T E L 0 3 - 6 2 7 2 - 6 4 7 7

国立大学法人 愛媛大学との共同臨床研究開始に関するお知らせ

～口腔がんに対する樹状細胞ワクチン療法の再発予防効果の検証～

当社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：矢崎雄一郎）は、国立大学法人愛媛大学（所在地：愛媛県松山市、学長：柳澤康信、以下「愛媛大学」）及び愛媛大学医学部附属病院（所在地：愛媛県東温市、院長：横山雅好）に対し、がん免疫療法のひとつである「樹状細胞ワクチン療法」の技術・ノウハウを、頭頸部癌、肺癌、胃癌、大腸癌、食道癌、肝臓癌、胆管癌、膵臓癌、乳腺癌及び悪性骨軟部腫瘍（転移性を含む）を対象に平成21年8月より提供しておりますが、この度、これら自費治療と並行して、新たに愛媛大学と共同研究契約を締結いたしました。

当社及び愛媛大学は、この共同研究契約に基づき、愛媛大学医学部附属病院において口腔がんに対する自己がん組織を用いた樹状細胞ワクチン療法の臨床研究を開始いたします。

樹状細胞ワクチン療法は、患者自身の免疫細胞を利用してがん細胞のみを狙う治療技術です。体の外で培養され、がんの目印（抗原）を覚えた樹状細胞は、体内でリンパ球の司令塔となって、リンパ球にがん細胞のみを狙って攻撃させます。リンパ球には、がんの目印を記憶したまま長期間生存するメモリー機能^{*1}が備わっているため、この療法は長期にわたってがん細胞を狙い続けるワクチン効果を発揮することが期待されています。また、自己の細胞を用いるため、副作用はほとんどないと言われていています。

<共同臨床研究の目的>

現在、口腔がんにおいては、標準治療として手術、放射線療法及び化学療法が提供されていますが、これら治療が施されても、再発や転移が起こる等、予後の悪い患者の方が多数いらっしゃいます。

本共同臨床研究は、愛媛大学医学部 口腔顎顔面外科学 浜川裕之教授が研究を統括し、当社が技術・ノウハウを提供する樹状細胞ワクチン療法を口腔がんに対して用いる臨床研究であり、口腔がんに対する自己がん組織を用いた樹状細胞ワクチン療法の有用性の確立及びその再発予防効果の検証を目的としています。

これまで、樹状細胞ワクチン療法は主のがんの治療を目的として提供されてまいりましたが、本臨床研究により樹状細胞ワクチン療法の口腔がんに対する有用性及びその再発予防効果が検証されれば、がんの再発予防という新たな分野において、弊社の保有する樹状細胞ワクチン療法の技術・ノウハウを活用することが可能となります。

テラは、がん患者のみなさまに新たながん治療のソリューションを提供するパートナーとして研究・開発に力を注ぎ、「革新的な医療技術・サービスを創造し、みなさまの未来に貢献すること」をミッションに、これからも医療と社会の未来のために可能性を創り続けてまいります。

なお、本件の共同研究契約締結による業績への影響は軽微であります。

以 上

※1：メモリー機能

病気を起こすウイルスや細菌に一度感染した場合に、同じウイルスや細菌に再びかかることがなくなるか、症状が軽減する場合がしばしば起こります。これは、ウイルスや細菌による一度目の感染で体の免疫がメモリーとなって覚えるからです。このメモリーは、数か月から数年、あるいは一生涯に渡って保持されることがあります。リンパ球は、敵の目印（抗原）を提示されると、一部はメモリー細胞となって体中を回り、次に同じ敵が入ってくるのを待ち構えます。